

● 震災時に起こりうること ●

1-1 日中に発災した場合

- ・ 交通機関が停止すれば、大量の帰宅困難者が発生し、駅や施設へ人が殺到する。
- ・ 正確な情報が伝わらない場合、群衆でパニックが起きる。
- ・ 過疎高齢地域など昼間の在宅率が低い地域では、救助や消火の人手が不足する。
- ・ 安否確認のために大勢の人が電話を使用し、輻輳が生じる。
- ・ 食事の支度をしている時間帯であれば、使用している火気が出火要因となる。

1-2 夜間に発災した場合

- ・ 多くの人が就寝中であるため、市街地や公共交通機関での被害は抑えられる。
- ・ 布団や毛布で体を覆うことで、落下物から身を守るとともに暖をとることができる。
- ・ 自宅に居る人が多いため、比較的容易に安否確認を行うことができる。
- ・ 家具が倒れてきても避けられず、下敷きになる可能性がある。
- ・ 停電になった場合、周囲の状況が確認できない。(メガネ等が使えない場合も同様。)

2-1 夏に発災した場合

- ・ 衛生状態が悪化し、高齢者や病弱者にとっては過酷な状況となる。
- ・ 倒壊家屋に閉じこめられた人が熱中症になる。
- ・ 火葬することも棺に入れることもできない遺体が腐乱する。
- ・ 生物(なまもの)腐敗が進行し、悪臭やカビ、ハエなどが発生する。
- ・ 食中毒などの感染症が発生する。

2-2 冬に発災した場合

- ・ 暖房器具の火気や油漏れにより火災が発生する。
- ・ 倒壊家屋に閉じこめられた人が凍傷や低体温症になる。
- ・ 地震の際に、雪の重みで家屋が倒壊する。
- ・ 屋根からの落雪により避難路が塞がれてしまう。
- ・ 積雪がある場合、自力で歩けない人の避難や負傷者の搬送に時間がかかる。